

目次

- ・ 共働舎とんぼガーデンの2年目…… 1
- ・ 幼稚園の先生方と研修会…… 1
- ・ 田んぼから…… 2
- ・ 生きもの調査をやってみよう！…… 2
- ・ ブーメランのワークショップ…… 3

- ・ 季節の移ろい、写真でも～定点撮影…… 3
- ・ ゴーヤの種を蒔いてみた！…… 4
- ・ 小さな子どもとわら細工～手仕事を考える…… 4
- ♪ ページをめくるひととき・その5『きものという農業』…… 3

★共働舎とんぼガーデンの2年目★3月22日(土)横浜市泉区の共働舎(知的障がい者の通所授産施設)にて「春のわくわくセールデー」が開催され、その際の催しの1つとしてとんぼガーデン(ビオトープ)の観察会「とんぼの気持ちで町をみてみよう 第4弾」も実施しました。これは、共働舎の地域交流事業の1つ、「共働舎のビオトープから身近な環境を考える」の一環でもあります。

とんぼガーデンを昨年6月に改修してから8ヶ月以上が経ち、その間に地域の方にもだいぶ親しまれ始めたのでしょうか、こうした観察会にいつも来てくださる親子連れなども増え、「また来たね～」と挨拶を交わすようになりました。この日の観察会では、2月の観察会での気



マコモの苗床を作っています

づきを活かし、①岸辺の土が落ちている所に土を入れる②水際の草を増やすための移植や種まき…を行いました。

マコモの苗作り、スマレやカンガレイ、サンカクイの種まきは子どもたちにたいへんな人気でした！やはり手やからだを動かしての未来に向かった作業は楽しいですね。

ビオトープって何？ビオトープとは、生きものの繁殖、エサ、ねぐら、隠れ場所などの暮らす条件が整った場所のことです。ですので、そこは家の庭だったり、川や海、森、田んぼなどだったり、原っぱや池、湿地だったり様々です。今は特に湿地や浅瀬のような微妙な場所が減っています。



そして5月3日(祝)には「Spring Festival」の一環で「ビオトープ観察会」を実施。共働舎の利用者さんもサポー



私の力作？仕掛けもある紙芝居♪

トに入り、訪れた人たちに「メダカとトンボの紙芝居」をしたり、トンボのクイズをしたり、池にいるヤゴやメダカを観察してもらったりしました。

来てくれた人の喜ぶ顔も嬉しかったのですが、利用者さんもスタッフと一緒にやれたこともとても嬉しく感じました。この時に、今年1年に渡り、とんぼガーデンと地域の自然環境のことを考



トンボのクイズ奮闘中！

え、より良い場所にしていこうという「とんぼガーデン観察隊」を募集。5月31日から第1回の活動が始まります。利用者さんも毎回スタッフとして加わり、このビオトープが地域との交流にいいよ一役買えるのかもしれないと、気持ちを新たにしています。★共働舎のビオトープ事業は、有)カルティベートカンパニー・三森典彰氏・私の3者で協働展開しています★

★幼稚園の先生方と研修会★4月30日、横浜市内のある幼稚園からのご依頼で、「明日の保育に役立つ自然遊びを学ぼう」をテーマに研修会の講師を務めました。ここ数年、幼児への自然体験のニーズがどんどん高まってきているように感じます。しかし、一方で英語教育なども人気があるそうで、二極化しているのかな？とも感じます。

今回の研修会では、園庭という身近な自然を再発見することと、先生方自身が持っている自然遊びのアイデアや体験を出し合って共有することをねらいにしました。従って、私から一方的に「教える」というのではなく、体験からの気づきを大事にしようと進めていきました。

「ダンゴ虫レース」のようにどこにでもいる、子どもにも人気の虫との遊びや、キツネとウサギになつての追いか



けっこのような動的なものから、木陰で風に吹かれながら耳をすましたり、足元の小さな世界をじっくりと見つめるマイクロハイ

ダンゴ虫レースに先生も歓声！ ク(ネイチャーゲームの1つ)をしたり、と過ごしているうちにあつという間に予定の2時間半が終わりました。先生方の少しでも役に立てたなら嬉しいなあと思っています。

★田んぼから★春になると田んぼでは田植えに向けての準備が始まり、だんだんといそがしくなつてきます。

まずは苗作りです。「苗半作」の言葉が示すようにいかに丈夫で良い苗を作るかで秋の実りの半分は決まると言われる重要な作業です。その第一歩が「良い種籾を選ぶ」こと。塩水選という方法で塩水に入れて沈んだ重い種籾を選び、7～10日ほど水に漬けて発芽を促します。ちなみにタネツケバナという花の名は「種を水に漬ける頃咲く」ことから来ています。



種籾を水に漬ける

そして4月初めに苗代を作り、そこに種まきをします。1ヶ月くらいすると写真のように伸びてきます。その間の水の管理には気をつかい、発芽するまでは少し水を多めにし



苗代に苗がでそろった

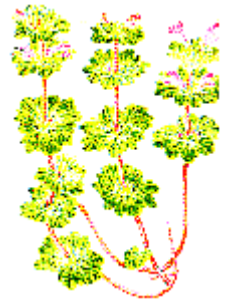
て暖かくし、発芽したら少し少なめにします。しかし微妙な気候の変化やその年の苗の具合などなどで決してマニュアルどおりには行きません。360度グルリと感覚と考えを巡らしていく必要があります。そこが面白くも難しくもあり

ます。その間にも畦にモグラの穴があいて水が漏れたり、水路からの取水がどうやってもうまいかない！(泣きたくなります！)などといろんなハ

プニングもあり、そのたびにスコップと鍬でミニ土木作業とあいなります。

さて、苗代で着々と苗が育っている間にほかの田んぼでは田起こしと代かきが行われます。さあ、次はいよいよ田植えです！

★生きもの調査をやってみよう！★私は仕事柄、いくつかの生きもの調査をやっています。ムササビ、ホタル、カヤネズミ、ヤマアカガエル、そしてこの春からは新たに「市民協働生きもの調査」というプロジェクトの一環で植物調査も始めました。これは横浜市が計画して市民に呼びかけ、関心のある市民に「生きもの調査員」になってもらい、市内123箇所の調査ポイントで植物や鳥の出現状況を調べるものです。市民調査員は希望するポイントで予めリストアップされた生物が生息しているかどうかを調査するというものです。来年度は哺乳類など他の生物の調査員も順次募集されるようです。



そしてもうひとつ、間もなく始まる環境省「モニタリング1000里地調査」にグループで参加しています。

これらの調査活動はまったく個人的にやることはあまり無く、こうしたプロジェクトに乗っていったり、グループで実施したりすることが多いものです。

調査活動に参加することで得るものは大きく、多くは自分の住む地域で実施するので、地域の自然環境を広く把握できること、その生物について必然的にいろいろ勉強し、実際に観察もすることで経験知を深められること、調査に先立って行われる講習会に参加することが勉強になること、などが挙げられます。私の場合、地域の自然環境にかかわる仕事をしているので、そのための基礎体力トレーニングにもなっています。先日はビオトープの仕事をするにあたって以前調査をしておいたことが基礎データとしてとても役に立ちました。

もっと誰にでも取り組みやすい生きもの調査～たとえば**セミの抜け殻調査**とか～をやっている団体も多いので、インターネットなどで調べて参加してみると、思わぬ発見や楽しみが見つかるかもしれませんよ！ご家族やお友達との新たな交流のきっかけにもなるかも？！



★ブーメランのワークショップ★千葉県船橋市にある「ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館」のワークショップ「ブーメランで風を感じて！」を見学させていただきました(5月18日(日))。これは東京の会社「アートアソシエイツ八咫」(やた)さんが企画したもので、常々、自然体験や自然を守り育てることと‘アート’との接点を活かさないかなあと思っていたので、八咫さんのプロジェクトに関心がありました。



さて、ブーメラン。私も初めて飛ばしてみました。本当に戻ってきた～～！とまず感激！会場には色とりどりに

デザインされたブーメランや、オーストラリアの先住民アボリジニの昔話なども展示されている中、参加した子どもたちは紙を切り抜いて形作り、マジックで色やデザインを施して個性的な「マイ・ブーメラン」を作成し、それぞれ懸命に飛ばしていました(うまく飛ばすにはちょっとしたコツがあるので)。講師の先光吉伸さん(日本ブーメラン



協会代表理事)が翼を1つ1つほんのわずかに曲げるだけでちゃんと戻ってくるブーメランになるのに感心し

きり。こういう道具を生み出した先人の知恵にあらためてうーんとうなります。

アボリジニの昔話も、自然とともに暮らしていた人々の感性を感じるととても興味深いものでした。もっとアボリジニのことを知りたいと思いました。

このワークショップは6月15日(日)にも開催されます。詳しくは子ども美術館のHPをチェック！ちなみにこの日の定員20名×2回は朝のうちに満員になったようですよ。

* ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館

047-457-6661 <http://www.park-funabashi.or.jp>

★季節の移ろい、写真でも★横浜の谷戸を3月から5月にかけて定点撮影してみました。冬から春への移り変わりがわかりますね～。家族の写真を入れているアルバムにしている人もいました。そんな使い方もいいですね。

冬枯れの谷戸です



畦に少しずつ緑が…



山桜や大島桜が煙っています



田んぼに水が入ったよ！



コーヒーとともにページをめくるひととき…
★その5

『きものという農業』中谷比佐子著、三五館
副題は「大地からきものを作る人たち」。きもの生地となる絹・麻・和棉の生産の現状を見つめ、それに取り組む人たちや歴史を紹介する。読みながら、まさに私たちが身にまとう「衣」というものが、大地と太陽と水とあらゆる生きものから生み出されるものだという事を思い知らされる。きもの柄にも自然にまつわるいろんな意味があることも知り、きものへの興味もますます湧く1冊。

★ゴーヤの種を蒔いてみた！★『あおぞら通信No. 7』の「壁面緑化で夏を涼しく」の記事で、ゴーヤの種を蒔いて我が家の壁面ミニ緑化をしようかなあと書きました。



ゴーヤの芽が出た！

その続きです♪ 3月下旬、とっておいたゴーヤの種7～8粒をプランターに蒔いてビニールで覆いました。が、すぐに風で飛んでしまい、そのままにしていました。

知人から、夏に間に合わせたいなら、ビニールで覆って早く発芽させたほうがいいよ！と言われていたからなのですが、案の定、それから1ヶ月何の音沙汰も無く、「ダメなのかなあ」と諦めかけていた5月の連休の時。芽が出ました！見てください。力強く土を持ち上げています。全部で4つ出ました。やはり南国の野菜だから、気温が20度くらいになるといいのかもしれないですね。

これで緑のカーテンを作って西日をさえぎるようにできるといいなあ。それにゴーヤは夏バテの特効薬なんですよ！夏は好きですが、ますます楽しみになってきました。



★子どもとのわら細工～手仕事を考える

数年前から里山の自然と文化を守り育てる仕事をするようになってから、元々嫌いではなかった「暮らしの中の手仕事」を、楽しんだり自分の意外な才能？を発見したりとますますその面白さや奥深さを感じるようになりました。

でも「布」とか「ひも」とか「結ぶ」などには苦手意識が。

そんな私ですが、1年間田んぼでお米づくりを体験した「親子自然教室」の締めくくりの記念品としての「わら馬」作りを親子の皆さんとともに楽しんでいます。

私たちは今自分が着ている服や食べている野菜がどこでどうやって作られたのかほとんどわかりません。でもそれっておかしいよね？と思います。遠い外国のことやコンピュータの勉強はしても、着ている服の糸1本がどのように作られているのかは知らない。「生きる」「暮らす」ということの根本をもっと身近に考え直したい、そのきっかけの1つに「手仕事」があるのではないかなと思います。

4～6歳の親子で「わら馬」を作りました

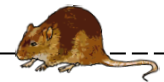


〇〇つぶやき〇〇15歳の時から私はサザンオールスターズが大好き♪それだけに今回の活動休止宣言はさびしい！サザンは私の青春とともにあったなあ～～とハタ千前後の自分を思い出しセンチメンタルな気分にしほし浸る。久しぶりに昔のアルバムでもと思ったけど「レコード」なので聴く術無し。ああ～。しかし今まさに私の頭の中では「いなせな口コモーション」がかり始めたあ～～！♪♪

★自己紹介★私は、里山を生かした公園のスタッフとして

自然の保全やイベントの運営に携わる一方、「あおぞら自然共育舎」として、フリーランスで自然体験・再生・創出のための仕事をしています。「気づき」を大切にすることが信条。最近はビオトープ関連の仕事も増えてきました★この通信で自然のことや私がやっていること、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントのようなこともお伝えできたらなあと思ひ、私が会った方や知っている方にお渡ししています。ご家族やお友達との回し読み歓迎です☆ネイチャーゲームインストラクター・ビオトープ管理士・有)カルティベイトカンパニー 人と自然の研究所客員研究員☆横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。

〇〇おどろき〇〇5月下旬のある夜。ホテルの観測を終えて帰宅する途中、近所の路上で小さな動く物に遭遇した。よく見るとそれはドフネスミ。もっとよく見ようと立ち止まると向こうも止まって私の顔を見る。動く。立ち止まって見つめ合う。それを2回くらい繰り返したところ、なんと私の足元に寄ってきた！ネスミってこんなに人なつかかったっけ？？1日の疲れも吹き飛ばす楽しい体験でした。



*仕事の相談、感想はこちらまでお気軽に！→hiromi-h@river.dti.ne.jp 早川広美 (あおぞら自然共育舎)